

書架の固定など被害の教訓に

地震のとき図書館は——

アンケートにみる青森・秋田・神奈川・静岡の図書館

津 藤 牧 子

今年5月26日に発生した日本海中部地震の被害は、津波によるものが大部分であったが、被害の集中した秋田・青森両県の図書館の状況はどのようなものだったのか、また、東海地震の対策強化地域である神奈川・静岡両県では、どんな対策もっているのだろうか。当編集委員会では、地震という自然災害による被害を最少限にとどめるために何をなすべきかを考える上で非常に重要である実際の被害状況、対応、防災対策について、上記4県の公共図書館にアンケート調査を行なった。(7月4日送付)。青森・秋田からは、47館中37館(79%)、神奈川・静岡からは91館中58館(64%)より回答をいただいた。

津波被害などに比べ図書館の被害軽微だったが……

一ケガ人はなし、図書の落下が3割一

アンケート調査の結果は別項の通りであるが、まず、5月の地震による被害という点では、青森・秋田両県とも怪我人はなく、本が書架から落ちた(30%)、机から物品が落ちた(27%)体を感じる程度の振動(43%)という状態であった。

秋田県能代市図書館からは、自館の被害が一番ひどいようだというところでくわしい被害状況が寄せられたが、それによると、壁の亀裂6か所(30cm~1mくらいのひび割れは数えきれない)、片面書架(二段重式)

の上段16架およびガラス戸付書棚2架が倒れ、両面書架の上段および下段に10cm程度のずれが見られた。開架図書の落下数は約4500~5000冊、書庫内移動式書架が前後左右に動き、電灯および蛍光灯(あわせて5灯)に激突、ショートして停電、書架には脱輪・歪みが見られ図書も相当数落下した、とのことであり、書架の固定の問題が大きくクローズアップされているといえよう。

地震対策が進む神奈川・静岡
一対策ありは4割だった 青森・秋田一

つぎに地震への日頃からの対策について青森・秋田と神奈川・静岡を比較してみると表のようになる。

	青森・秋田	神奈川・静岡
対策あり	38%	81%
※うちマニュアルあり	※対策ありの29% 全体の11%	※対策ありの47% 全体の38%
対策なし	62%	19%

神奈川・静岡では、地震をふくむ非常時対策が81%の図書館でたてられており、その約半数でマニュアルが作成されているのに比し、青森・秋田では、対策もっている館が38%、マニュアルもっている館は全体の11%にすぎない。

ただし、今回のアンケートでは、設問がややあいまいで、消防法にもとづく防火管理業務について必要な事項をとりきめた、いわゆる“消防計画”も、質問にいうところの“マニュアル”と回答したところもあ

り、また、大規模地震対策特別措置法に基づく警戒宣言が発令された場合における自衛消防組織についてのとりきめを、それとして回答してきた館もあり、今後さらに精緻な調査が必要であることを付記しておく。

宮城沖・浦河地震の被害の教訓を
全国へ

—書架も頭部連結だけでは将棋倒し—

また送付していただいたマニュアルを閲覧すると大部分が非常時の消火作業や避難活動に重点がおかれ、図書館で最も危険性の高い書架の転倒・図書の落下などへの対策がどうなっているのか、不明なものもあった。マニュアルには含まれていなくても、事前に書架を固定するなどの処置を行なっているところもあると思われるが、これから建築される新館のみではなく既設館においても、この点については早急な対応が必要であろう。その際、頭部連結のみでは将棋倒しのような同方向への倒伏に対しては無力であること、軟弱地盤地区では、頭つなぎのほかに床に脚部を固定した書架でも脚元から折れ曲った例があること、壁面書架で壁に緊結していないものは、壁とのゆれ周期が違ってきて壁によって叩かれて倒れ易いなどの指摘(「図書館と地震」本田明 本誌 Vol.73 No.6)を十分配慮しなくてはならない。

ただし、これらの点についても、今回のアンケートはややあいまい

で、上記本田論文や、「浦河地震・震度6・その時の図書館」(本誌Vol.76 No.12)などの教訓に教えられ、例えば、青森県立図書館では、今春書架の固定をはかったばかりだったので、図書の落下も少なくて済み、書架の倒伏はなかったなど、貴重な教訓もあるはずであるが、そうした事例をうまく引出せなかったのは残念である。

災害は忘れた頃にやってくる
—多忙に追われつい油断する—

また、自分の館の話で恐縮であるが、厚木市立図書館には一応簡単なマニュアルがあるが、通常はまったくそれに関係なく個々の作業をしているわけで、当然ながら年1回程度の防災訓練等が重要になってくる。ところが、図書館の業務量がふえ続けている現在、実施するだけがせいっぱいでなかなか十分時間をとって訓練にとりくめないのが実状で、これが地震対策強化地域以外の地域になると、ますます日常業務に追われてつい油断してというようなことが多くなるのではないだろうか。

とにかく、私自身の反省も含めて日頃から、もしもの場合への万全の準備体制を整えていかななくてはならないと感じた。

なお、アンケートにご協力いただいた4県の図書館の方がたに厚くお礼申し上げます。

(つとう まきこ：厚木市立図書館・本誌編集委員)

関係図書館の“マニュアル”は送付されたものは当協会資料室で閲覧できます。そのうち、地震対策にかなりふれているのは次のものです。

- 青森県立 消防計画
防災訓練実施要領
- 十和田市民 消防計画
- 秋田県立秋田 地震対策について

あの時図書館では・アンケート集計結果

◆青森、秋田地区(47館中37館, 回答率79%)

§1. あなたの図書館ではどの程度の震動でしたか	
イ. 本が書棚からたくさん落ちた	11<30%>
ロ. 事務室などで、不安定な置き方をしていた本や物品が落ちた	10<27>
ハ. 体に感じる程度で特に異常は起きなかった	16<43>
§2. 停電, その他の異常事態が起きましたか	
イ. 停電した	2<5>
ロ. 特に何も起きなかった	30<81>
ハ. その他	5<14>*1
§3. ケガ人は出ませんでしたか	
イ. 出た()人 ケガの内容と原因は	0<0>
ロ. 出なかった	37<100>
§4. 利用者は何人ぐらいいましたか	
約 人 (内. 大人 人, 子供 人)	0人 9<24>
	1~5 17<46>
	6~10 7<19>
	11~20 2<5>
	21人~ 2(25人…1, 80人…1)<5>
§5. 館員として、利用者に対して、何かの指示をしましたか(複数回答)	
イ. 騒がないように注意した	1<3>
ロ. 書棚から離れるよう指示した	19<51>
ハ. その他	19<51>*2
§6. 館員として留意したことがありましたか(同上)	
イ. 玄関や窓の開放	16<43>
ロ. 特に児童室へ、人を多く配置し、成り行きをみた	1<3>
ハ. 仕事を止めて避難の必要があるかどうか待機した	19<51>
ニ. その他	7<19>*3
§7. あなたの館では日頃から地震に対する対策をたっていますか。また地震をふくめた非常時対策のマニュアルがつくられていますか。(マニュアルがある場合別便にてお送り下されば幸いです)	対策あり14<38> うちマニュアルあり 4<対策ありの29 全体の 11> 対策なし23<62>
§8. 終わった後で、館員同志話し合った対策や注意事項があればお知らせ下さい。	記入あり19<51> " なし18<49>

注*1 壁に亀裂が入った。電話が不通になったなど

*2 避難誘導した。ガラスに注意するといったようなこと

*3 屋外への避難など

◆神奈川、静岡地区(91館中58館, 回答率64%)

質問は上記のうち §7.のみ

対策あり 47<81%> (うちマニュアルあり 22<47%>)

対策なし 11<19%>

神奈川県立 地震防災応急計画	鎌倉市中央 地震防災対策規程
消防計画	鎌倉市大船行政センター 消防計画
神奈川県立川崎 ポケット消防計画	厚木市立 防災訓練実施要項
消防計画	小田原市立 図書館地震防災規程
横浜市立金沢 震災対策	静岡県立中央 地震防災応急計画
川崎市立 震災対策	災害対策処理要領
藤沢市中央 警戒宣言発令時の応急対策	藤枝市立 地震防災規程